

目指す学校像	児童一人ひとりが期待感をもって登校し、満足感をもって下校できる学校
重点目標	1 個別最適な学びの充実と基礎基本の定着 及び 「できる」「わかる」授業の実践 2 自己肯定感の育成 3 地域に愛着を持つ児童の育成 及び 地域の教育活動への参加促進 4 ICTを活用した授業実践の充実 及び 教職員の主体的な研修の充実

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日(令和)年 月 日	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数とも全国の平均正答率を上回り、前年度より大きく学力が向上した。しかし、市の平均で見ると、算数はまだ下回っている。 ○児童学校評価「授業の内容がわかりますか」の回答で否定的回答が4%ある。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の分析結果から、国語の「書くこと」及び算数の「数と計算」領域が国・市の平均以下である。また、算数の評価の観点「知識・技能」が平均以下であり、算数の基礎基本に関する部分について課題がみられる。 ○全ての児童に「できる」「わかる」を実感させるとともに、自己肯定感を高めさせることが課題である。	・個別最適な学びの充実と基礎基本の定着 ・「できる」「わかる」授業の実践	①児童対象の「学びの指標」アンケートとともに、教員対象の「授業者用チェックリスト」を用いた授業改善を行う。(年2回) ②市教委の学力向上カウンセリング研修を受講することを通して、個別最適な学びについて各教員がより効果的な手立てを決定し、授業を実践する。 ③計算タイムの時間などで基礎基本を繰り返し、定着を図る。	①児童対象「学びの指標」について、1回目より2回目の結果を向上させることができたか。 ②教職員学校評価「個に応じた指導ができたか。」の肯定的回答を前年度より向上させることができたか。 ③毎週1回、15分間の計算タイムが計画的に実施できたか。					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした児童の割合は全国・市を上回っている。 ○今年度第1回「心と生活のアンケート」における「信頼自己」における高い結果が57%だったが、低い結果が5%ある。 (課題) ○「心と生活のアンケート」の「信頼自己」が低い数名の児童に対し、どのような手立てで向上させていくかを組織的に取り組む必要がある。	・人権教育の推進を中心に据えた自己肯定感の育成 ・認め合い、高め合う児童縦割り活動の充実	①「自己肯定感が高まるような言葉」の掲示や、「自他の発言や行動のよさを振り返ることができるような掲示や活動」を通年で実施する。 ②毎月、全学年対象の生活アンケートを行い、児童一人ひとりの状況を把握し、内容に応じて面談を実施する。 ③一人ひとりが役割を意識し、認め合う縦割り活動を充実させる。	①②「心と生活のアンケート」で、「信頼他者」「信頼自己」の肯定的回答の割合を、年度当初より高めることができたか。 ③児童縦割り活動の振り返りアンケートで、活動充実の項目が90%以上となったか。					
3	(現状) ○学校運営協議会で「育てほしい児童の姿」について熟議し、地域に関心をもって関わることができる児童を学校・家庭・地域で育てていくことを共有した。 ○地域学習への参加を呼び掛ける具体的な方策として、熟議で決定した「運動会における、児童・保護者・地域の方々による盆踊り」を復活実施することとした。 ○「盆踊りの実施」以外にどんな取組をしていくかについては、まだ具体的になっていない。 (課題) ○地域に関心をもって関わることができる児童を学校・家庭・地域で育成していくことについて、150周年記念行事とも絡めながら、さらにどのような取組をするか検討する必要がある。	・自分たちが住む地域に愛着をもつ児童の育成 ・地域の教育活動への参加促進	①カリキュラムマネジメントを行い、地域参加の学習や行事を教育課程に組み入れ、実施する。 ②地域の人たちにも、あいさつができるようにする。	①地域住民の方々が、授業や行事に参加することができたか。 ②学校評価児童アンケート「学校の外でも、お家の人たちや地域の人たちにあいさつができたか」が80%以上になったか。					
4	(現状) ○前年度保護者学校評価において、学習におけるICT機器活用について、肯定的回答が88%あった反面、「わからないので回答できない」ものが12%あった。 ○校内課題研修では、算数科を中心として2年目の学校課題研修に計画的に取り組み、児童の学力向上につなげた。 (課題) ○GIGA スクール構想を推進するにあたり、教職員のICT活用能力に差がある。また、家庭・地域への、より積極的な発信が必要である。 ○教員免許更新制度の発展的解消に伴う教職員研修の体制づくりと、教職員の自主的な研修受講が引き続き重要である。	・ICTを活用した授業実践の充実 ・教職員の主体的な研修の充実	①市教委のICT活用研修を通して、ICTを効果的に活用する手立てを学び、授業を実践する。 ②ミライシード・スタディサプリの活用に係る研修会を行う。 ③ICTの活用について、学校だけでなく学年だよりで積極的に保護者に周知する。	①②児童アンケート「ICTを活用した授業はわかりやすいか」の項目で、肯定的回答が90%以上になったか。 ①②教職員学校評価「ICTを活用した授業が実践できたか」の肯定的回答を前年度より向上させることができたか。 ③保護者学校評価「ICTを積極的に学習に活用しているか」の肯定的回答を前年度より向上させることができたか。					
			①人事評価当初面談時に「キャリア振り返りシート」等を活用し、管理職が研修受講を奨励する。教職員は研修プラットフォームを活用し、研修履修計画を立て、受講する。	①研修後、研修内容を校内に広めることができたか、また、研修成果を自己評価シート「研修」の成果欄に明記することができたか。					

目指す学校像	児童一人ひとりが期待感をもって登校し、満足感をもって下校できる学校
重点目標	1 個別最適な学びの充実と基礎基本の定着及び「できる」「わかる」授業の実践 2 自己肯定感の育成 3 地域に愛着を持つ児童の育成及び地域の教育活動への参加促進 4 ICTを活用した授業実践の充実及び教職員の主体的な研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	実施日 令和6年2月21日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○学力・学習調査では、国語、算数とも全国・市の平均正答率を下回っている結果である。 ○同上調査では学習が楽しいと答える児童の割合が市の平均回答を上回っている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の分析結果から、国語の書くこと及び算数の基礎基本に関する設問について課題がみられる。 ○児童が「できる」「わかる」を実感し、自己肯定感を味わわせ、自己表現力を向上させることが課題である。	・個別最適な学びの充実と基礎基本の定着 ・「できる」「わかる」授業の実践	①ドリルパークやスタディサブリを活用し、集積したデータを分析し児童一人ひとりの苦手分野を把握し、個別に指導していく。 ②計算タイムの時間などで基礎基本を繰り返して、定着を図る。	①児童一人ひとりのドリルパークやスタディサブリの進捗状況を把握しながら、取り組ませることができたか。 ②毎週水曜15分間の計算タイムが計画的に実施できたか。	①児童一人ひとりの進捗状況を確認しながら進めたが、個別最適な学びにつながるような指導や支援の実践には至らなかった。 ②各学年、計算タイムは計画的に実施できた。	B ○各学年、計算タイムは計画的に実施できたが、取り組む内容を、全国学テや市学調などの結果等を参考に吟味していく必要がある。 ○ドリルパークやスタディサブリについては、アプリ活用の研修を行い、個別最適な学びにつながる指導、支援ができるようにしていく。 ○市の平均と比べても、0.2ポイントほど高く、新しい学びの指標を意識した授業の改善が行われ、実践されている。 ○市学テの結果を受け、改善のための授業実践を行う。	・学校公開日や行事での教職員の様子からも児童一人ひとりへの丁寧な指導がうかがえる。 ・本校卒業生の中学校での様子から、学力に限らず、小学校で育成されてきた基礎が生かされている。 ・教職員の皆さんには自信をもって教育活動にあたっていただきたい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国・市を上回っている。 (課題) ○「心と生活のアンケート」で他者信頼や自己信頼が低い児童が数名いる。	・自己肯定感の育成	①毎月全学年対象の生活アンケートを行い、児童一人ひとりの状況を把握し、面談を実施する。 ②一人ひとりが役割を意識し、認め合う縦割り活動を充実させる。	①「心と生活のアンケート」で他者信頼・自己信頼を高めることができたか。 ②児童縦割り活動振り返りアンケートで、活動充実の項目が90%以上となったか。	①「心と生活のアンケート」の信頼グラフでD領域に属する児童の数は1回目と3回目を比べると減少している。 ②縦割り活動の児童振り返りでは、99%の児童が充実した取組ができたことと回答した。職員学校評価では、100%の職員が、肯定的な回答をした。	B ○アンケート、面談、日常の会話、行動観察から児童一人ひとりの状況を把握し、指導、助言ができた。配慮を必要とする児童個々への組織的な対応を充実していく。 ○お互いのよさを認め合う縦割り活動を継続し、充実させていく。	・毎月のアンケート、縦割り活動などを継続し、いじめを許さない気持ちをもった児童の育成と、児童の悩みやトラブルに対応していくことを教職員には継続して行っていただきたい。
3	(現状) ○学校運営協議会準備委員会で育てほしい児童の姿について熟識し地域に関心をもって関わるができる児童を学校と家庭と地域で育てていくことを共有し、地域学習への参加を呼び掛ける具体的な方策を話し合うことができた。 (課題) ○コロナ禍で、途絶えたり、減少したりしていた地域からの教育活動への参画を、元に戻し、さらに発展させていくかが課題である。	・自分たちが住む地域に愛着をもつ児童の育成 ・地域の教育活動への参加促進	①カリキュラムマネージメントを行い、地域参加の学習を教育課程に組み入れ、実施する。 ②地域の人たちにも、あいさつができるようにする。	①地域に住む方々が、授業に参加することができたか。 ②学校評価児童アンケート「学校の外でも、お家の人たちや地域の人たちにあいさつができたか」80%となったか。	①3年の社会と総合的な学習の時間に2名の地域の方に、授業の中でご講義をいただいた。交流給食へもつなげることができた。 ②学校評価児童アンケート「学校の外でも、お家の人たちや地域の人たちにあいさつができたか」98.2%となった。	A ○昨年度からの地域学習への地域の方々の参加への呼びかけが実を結び、地域講師を活用した授業が実施できた。他学年にも広げていきたい。また、その授業を通して、児童が自分たちの住む地域に興味・関心を深めることができた。	・今年度の学校運営協議会においても「地域に関心をもっている子どもの育成」について熟識を行ってきた。今年度、実践できたことの継続と、熟識でまとめた内容について実践につなげて行っていただきたい。
4	(現状) ○ミライシードを活用した授業実践の報告会を開くなど、AARで自走する体制ができた。 ○校内課題研修では、活動計画を立て、計画的に組織を進めている。 (課題) ○ICT活用のデジタルイノベーションからデジタルイノベーションへの変革 ○教員免許更新制度の発展的解消に伴う教職員研修の体制づくりと確実な実施	・ICTを活用した授業実践の充実 ・教職員の主体的な研修の充実	①「学びのポイント(じ・し・や・く)でつながる学び」に視点を置いた研究授業・研究協議を市教委より指導者を招聘して年2回行う。 ②ミライシード・スタディサブリの活用に係る研修会を行う。	①児童アンケート「ICTを活用」の項目で肯定的回答平均90%以上になったか。 ②全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。	①児童アンケート「ICTを活用」の項目で肯定的回答の平均は96.4%となった。 ②全ての教員が日常的に、学習用タブレットPCを用いて、ICTを活用し、授業実践を行っている。	B ○ICTの日常的な活用に加え、「学びのポイント(じ・し・や・く)でつながる学び」の実践に取り組むことができた。「主体的な学び」探究的な学びがより深まるように実践を深めた。 ○教員もキャリア振り返りを行いながら、主体的に研修の計画を立て、履修し、その成果を職務で発揮できるように面談等の対話を設定し、充実させていく。	・タブレット端末を活用した授業の取組は、公開日等で授業実践されている場面を見ることもできた。特別支援学級での活用もなされていることが分かった。